

平成28年度 学校評価に係る自己評価書

学校名	北海道おといねっぴ美術工芸高等学校
-----	-------------------

1 本年度の重点目標

- (1) 基本的な生活習慣の確立と学習習慣を定着させる。
- (2) 生徒一人ひとりの個性を生かした造形教育を推進する。
- (3) 学校生活・寄宿舎生活をととして、キャリア教育を推進し社会性を育成する。
- (4) 魅力ある教育活動の発展充実を目指し研修や実践を推進する。

2 本年度の経営方針

- (1) 創作活動をととして学ぶ意欲を高め、可能性を引き出し、伸ばし、確かな学力を育成する。
- (2) 他を思い理解し、共に学び感動があふれる学校生活をととして、豊かな人間性を育成する。
- (3) 全道唯一の工芸科として、美術工芸の学びをととした質の高い教育活動を推進する。
- (4) 生徒・保護者・地域の信頼と期待に応える、地域に根差し開かれた学校づくりを推進する。

3 自己評価結果

分野・領域	評価項目	達成状況	取組の適切さ	改善の方策
学校経営	(1) 創造力の育成と人間力を高める教育を実践し、夢語り感動があふれる学校づくりを推進できたか。	B	B	・教育活動の確実な引き継ぎを図る。
	(2) 魅力ある教育活動の取組（美術工芸教育、高大連携教育、国際理解教育、地域連携教育等）によって、教育の質的向上が図られたか。	B	B	
学習指導	(1) 生徒一人ひとりの実態に即した学習指導によって、基礎的基本的な学力の定着や向上が図られたか。	B	B	・工芸制作関係における教材研究の時間を充実させる。 ・図書教育の工夫・改善を図る。
	(2) 多様な生徒に対応する教材開発や指導方法・評価方法の工夫改善によって、学ぶ意欲を喚起して能力を伸ばせたか。	B	B	
	(3) 学習活動、特別活動、総合的な学習の時間の学びによって、これからの時代に求められる力が育っているか。	B	B	
	(4) 情報教育や図書教育の充実を図り、豊かな人間性を育成できたか。	B	C	
生徒指導	(1) 教職員の共通理解と実践によって、基本的な生活習慣の定着が図られたか。	B	B	・共通理解と情報の共有化を図る。 ・生徒への確実な情報伝達を図る。
	(2) 地域の特色を生かした特別活動等の充実を図り、生徒の自主性や自律性を育成できたか。	B	B	
	(3) 教育相談活動を充実して多面的に生徒を理解し、いじめ等を含めた問題の早期発見・対応を実践できたか。	B	B	
進路指導	(1) 進路意識を高めながらキャリア発達の促進を目指し、自己実現に向けて努力する態度を育成できたか。	B	B	・生徒一人一人に対応したきめ細かい進路指導を推進する。
	(2) 自己理解を深め、個性や能力・適性に応じて進路目標を設定する力を育成できたか。	B	B	
	(3) 情報収集と情報発信を活発に行い個に応じた進路指導を充実して、進路実現を達成できたか。	B	B	
健康・安全指導	(1) 保健教育を充実させ、個々の生徒の状況を的確に把握し、生命の大切さを知り、主体的に健康安全に努める姿勢を育成できたか。	B	B	・生徒に怪我をさせない作業内容の改善を図る。 ・学校や寮の清掃美化を徹底する。
	(2) 校内外の清掃美化や施設の保全、環境教育をととして、快適な教育環境づくりを推進できたか。	B	B	
	(3) 教育活動全体をととして、安全教育を徹底させ、適切な生活行動ができるよう指導できたか。	B	C	
組織運営	(1) 日常的組織的な連携が緊密化し、協働体制を確立できたか。	B	C	・教員間の連絡体制を確立させる。 ・危機管理について、要項等による全体への指導統一や問題点の改善を行う。
	(2) 学校課題の明確化・共有化を行い、前例踏襲に陥らずに工夫改善を図りながら各取組が進んだか。	B	B	
	(3) 危機管理意識が醸成されたか。	C	C	
研修	(1) 専門性と資質能力の向上のための研修活動を充実させ、授業改善や実践力が向上したか。	B	B	・校外での情報研修を推進する。 ・校内研修後に授業改善や実践力を向上させる反省会議を推進する。
	(2) 服務規律保持・倫理観について、意識は向上したか。	B	B	
	(3) 個々の教員のスキルは向上したか。	B	B	
保護者、地域住民等との連携	(1) 保護者や地域に対して本校の取り組みを十分に情報発信することができたか。	B	B	・早めの情報発信によるイメージ改革を推進する。
	(2) 保護者や地域からの意見を聞き、積極的に学校改善に役立てることができたか。	B	B	
	(3) 保護者との連携を図りながら、充実したPTA活動が展開されたか。	B	B	

#### 4 自己評価における特記事項

- ・ 村立である特性、強さ、自由さや生徒募集像を村と考えていく意見交換の場を設ける。
- ・ 教員間の情報共有と協働体制の確立を図る。
- ・ 木の手づくり展等のイベント時の効果的な宣伝の工夫を図る。
- ・ 観点別評価方法の研修を推進する。